

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人エール・フォーユー

②評価調査者研修修了番号

SK2021037
SK2021041
S2022019

③施設名等

名称：	山形学園
施設長氏名：	大場由美子
定員：	40名
所在地(都道府県)：	山形県
所在地(市町村以下)：	山形市蔵王上野924
T E L：	023-688-2678
U R L：	https://yamagatashi-sj.or.jp/
【施設の概要】	
開設年月日	1949/4/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 山形市社会福祉事業団
職員数 常勤職員：	26名
職員数 非常勤職員：	10名
有資格職員の名称（ア）	社会福祉士
上記有資格職員の数：	3名
有資格職員の名称（イ）	児童指導員
上記有資格職員の数：	8名
有資格職員の名称（ウ）	保育士
上記有資格職員の数：	7名
有資格職員の名称（エ）	栄養士
上記有資格職員の数：	1名
有資格職員の名称（オ）	調理員
上記有資格職員の数：	2名
有資格職員の名称（カ）	看護師
上記有資格職員の数：	1名
施設設備の概要（ア）居室数：	1人部屋（14部屋） 3人部屋（7部屋）
施設設備の概要（イ）設備等：	
施設設備の概要（ウ）：	
施設設備の概要（エ）：	

④理念・基本方針

<p>【理念】 法の理念に基づき、よい環境の中で愛情を持って養護にあたり、将来、心身共に健やかな社会人として自立できるように育成する。</p> <p>【基本方針】 ○職員は、豊かな心と柔軟な思考・意欲を培いながら研鑽を高め、チームワークを図りながら愛情を持って児童の育成に当たる。 ○地域社会との交流・連携を深め、施設の理解を図りながら、児童の自主性や社会適応力の涵養に努める。</p>

⑤施設の特徴的な取組

<p>○子ども達の年齢や個々の発達段階に応じた個別的な対応が出来るよう、職員体制を整備している。 ○SST（ソーシャルスキルトレーニング）、性教育、命の学習、CAPワークの取組みの充実や個を大切に生活支援を行っている。 ○リービングケアおよびアフターケアの充実。</p>

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2023/5/2
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2023/7/26
前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和2年度（和暦）

⑦総評

◇評価の高い点◇

1. 子どもとの信頼関係の構築

「新しい社会的養育ビジョン」「社会的養育推進計画」に沿って小規模化が進められ、ユニットケアを実施しています。各ユニットは男女混合の縦割り中で中・高生は個室でプライバシーが守られており、子ども同士の関係や職員も含めて相性などを考えたユニット構成でトラブルの減少に繋がっています。

職員は子どもたちの「お父さん・お母さん」として信頼して貰えるよう、毎日子どもの話に耳を傾けそれぞれの悩みや抱えているストレスに向き合い、自立して行けるよう養育に取り組んでいます。小規模になったことで、より家庭的な環境でリビングは子どもたちにとっても居心地が良い情報交換の場所になっており、職員と宿題やゲームなどをして過ごし、また駅伝の選手に選ばれた子どもの応援に出かけたり、海や山へ旅行に行き思い出を作り、成長を見続けています。現在、子どもの要望で市主催のマラソン大会参加に向けて子どもたちと職員が練習を重ねており、何事も子どもと一緒に取り組むことで信頼が生まれています。「子どもの権利」を守りチームとしてのケアを大事にした体制で養育・支援に取り組んでいます。

2. リーピングケアとアフターケアの取組

近年、家庭復帰する子どもがほとんどなく学園から社会に巣立っていくのが現状となっています。また中・高生の占める割合が多く就職や進学を控えており、社会にでて自立して行くためにアルバイトなどでお金の使い方についても学び備えています。また運転免許取得や一人暮らしに向けた外部講師による社会のルール等を学び、さらにふれあいルームでの一人暮らし体験も実施しています。

自立支援担当職員を配置し、退所後は学園とSNSや電話などでいつでも連絡が取れるようにしており、社会での孤立化を防ぎ、相談できる場所として機能しています。結婚して家族を連れて泊りに来る子や休日に遊びに来るなどが園生は喜んで迎え、先輩を身近な手本として、自分達の将来像を重ねる子どももおり良い刺激になっています。退園生を支援する基金の任意団体があり「結婚祝」「出産祝」「成人祝」などの支援金を準備し、朗報を待っています。退所者には期限を決めずにいつでも相談できる体制で支え、学園は「実家」として心の拠り所としての居場所を目指しています。

3. マニュアルの整備について

支援に関する対応マニュアルとして13項目のマニュアルを整備しています。社会状況に鑑みて、新型コロナウイルス対応については隔離やゾーニング、ウィルス対応表等フローチャートにして分かりやすいものになっています。マイナンバー対応マニュアルも整備して制度等の変更があった場合、都度改善や見直しを図り、全職員で統一した取り組みが出来るよう明記し、周知を図っています。

◇改善が求められる点◇

1. 職員一人ひとりの目標設定について

理念や基本方針に基づき職員一人ひとりが目標を設定し、評価が行われる体制作りが必要と考えられます。管理職による面談やアドバイスをより更なる質向上に繋がるよう期待します。

2. 人材の確保

事業計画の中に令和8年度に向けて地域小規模養護施設の開設と山形学園の体制を3ユニットにし、減となった1ユニットを多機能化する計画が立てられています。今後、地域分散化の運営等を考慮して専門的な資格を有する職員の確保が必要と考えられることから、採用が進められるよう期待します。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

第三者評価を受審することで、私達が日頃実践している支援等、広い範囲に渡り評価して頂き、客観的に振り返ることが出来る機会となりました。

今回の受審結果を受け、職員一人ひとりが、さらに質の高い支援に繋がれるよう、強く意識して取り組んでいきたいと考えております。

また、入所している子どもたちが安心・安全に暮らしていけるよう、マニュアル等にとらわれず、チームとしての支援を大切にしながら、地域にとっても必要とされる施設環境を整えていきたいと考えております。

この受審に関わっていただいた皆様に心より御礼申し上げます。

⑨第三者評価結果（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
<p>① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。</p>	b
<p>【コメント】</p> <p>施設の基本方針・本年度の重点目標は毎年度の事業計画に記載されている。またパンフレットには施設概要に目的という形で記載、併せて法人のホームページにも記載されており、子どもや保護者に説明する材料としている。また年度当初職員会議の場などで読み合わせを行い、職員に周知もを行っている。</p>	

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
<p>① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子ども数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設（法人）が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。</p>	a
<p>【コメント】</p> <p>関係機関である児童相談所や山形市担当部局、子どもが通っている学校等と情報共有を常に行っている。また毎月市の会議に出席し情報連携を図っている。昨年度よりショートステイのニーズの高まりがあり、また家族構成も母子家庭が多くなってきているなどの子どもの生活環境の変化も捉えながら対応に当たっている。</p>	
<p>② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員（理事・監事等）間での共有がなされている。</p> <p><input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。</p>	a
<p>【コメント】</p>	

近年措置人数の減少に伴い措置費収入が減少しており、法人と連携しながら課題を共有している。職員会議等を通して職員間でも周知している。また中堅職員が法人内施設に異動したことで職員体制が薄くなってしまいう課題もあり、法人とも課題を共有している。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	<p>4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/>中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/>中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。</p> <p><input type="checkbox"/>中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/>中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。</p>	b
【コメント】		
地域小規模化・地域分散化に向けて、先進事例の検討や他施設の見学などを進め、令和8年度までに具体的な見直しを図る予定である。事業計画書に令和4年度の総括及び令和5年度の方針も明記しており、具体的な目標設定と評価が実施されている。		
②	<p>5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/>単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/>単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/>単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。</p> <p><input type="checkbox"/>単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p>	a
【コメント】		
単年度計画は毎年3月～4月に見直しと評価が行われている。総括した内容は事業計画書に明記し、運営会議等の場で職員全員に周知されている。		
(2) 事業計画が適切に策定されている。		
①	<p>6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。</p> <p><input type="checkbox"/>事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/>計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。</p> <p><input type="checkbox"/>事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。</p> <p><input type="checkbox"/>評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。</p>	a
【コメント】		
事業計画は毎年度見直しを行い、職員会議や運営会議の場で職員の意見も取り入れている。行事も一泊旅行やユニット毎の旅行など、子どもたちが様々なアクティビティを体験できる機会を多く持つよう工夫している。		
②	<p>7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。</p> <p><input type="checkbox"/>事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。</p>	b

	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	
【コメント】		
施設の性格上、保護者へ事業計画をすべて説明することは困難である。子ども達へは口頭や掲示物等で周知を図っている。年間行事計画は子ども達や職員の意見も取り入れながら、全体での行事やユニットごとの行事も策定している。		

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
① 8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。		a
<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。		
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。		
<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。		
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。		
【コメント】		
3年に1度第三者評価を受審している。第三者評価受審がない年度は施設内で自己評価を行い、事業計画書にも結果を盛り込んでおり、施設内外にも周知を行っている。		
② 9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。		a
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。		
<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。		
<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。		
<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。		
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。		
【コメント】		
第三者評価や自己評価を通じて年度毎に課題分析や評価を行っている。また毎月運営会議を実施し職員間での課題の共有や、課題解決のための検討をその都度実施している。		

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。		a
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。		
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。		
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。		

	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	
【コメント】		
施設長の役割・責任は事業計画書の職務分担表に明記されている。年度始めに会議等を通じて職員に周知を図っている。施設のキーワードは毎年度検討し、今年度は「子どもまんなか」に決定している。		
	② 11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	a
【コメント】		
施設長は関係機関との公正な関係を保ち、法令遵守に努めている。また倫理綱領や守秘義務もマニュアル化している。法令等が新しくなった際には職員会議等を通じて職員に周知している。		
(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。		
	① 12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。 (社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	b
【コメント】		
養育・支援の質の向上に関しては、職員会議の際に具体的な課題を明示し検討して、会議録に記録している。また施設長は毎年12月に職員と面談し、要望や思いを聞き取りながら指導し、必要があれば法人へ申告書をもって報告を行う。		
	② 13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	a
【コメント】		
施設長は職場の体制や面談で職員の意見を聞きながら、適正な人員配置や環境づくりに取り組んでいる。毎年度法人へ人員配置について上申を行い、今年度はアフターケアに対応するための人員配置を実施している。		

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	<p>14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。</p> <p>(社会的養護共通)</p> <p><input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。</p>	b
【コメント】		
慢性的に人員確保が困難な社会情勢もあり、計画的な人員確保は困難な状況である。その為6月から2月まで応募があれば随時採用試験は実施している。採用した人員は研修計画に基づき、専門性や期待される役割を發揮できるよう育成している。		
②	<p>15 総合的な人事管理が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。</p> <p><input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。</p>	a
【コメント】		
事業計画書に「期待される職員像」を目標設定し、職員に周知している。人事管理は法人で行うため、施設長は職員との面談や施設内での検討を基に法人に対し上申を行っている。		
(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
①	<p>16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。</p> <p><input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。</p>	a
【コメント】		

複雑な家庭環境に置かれていた子どもたちの養育・支援にあたる職員に向けて、年一回ストレスチェックを実施し産業医との連携も図られ、一人で悩まないようチームとして協働している。働きやすい職場を目指し育児休業制度も確立し、男性職員の取得もある。復帰後はスムーズに職場に戻れる環境を整えている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

「期待する職員像」を明記し、さらに「山形学園で働く職員としての必要な諸事項」の中で具体的に明示し、職員一人ひとりの指針となっている。施設長はそれらを踏まえて一人ひとりの目標設定・管理を行い、援助技術アップに繋がるよう期待したい。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	

【コメント】

事業計画の中に年間研修計画を明記し実施している。コロナ禍でオンライン研修が増えたことで多くの職員が参加でき、また契約職員やパート職員も同様に参加できている。研修後は報告書で共有し、社会福祉士等の資格取得に対してバックアップしている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	

【コメント】

階層別・職種別・テーマ別など各種研修に参加し質向上に励んでいる。外部からの研修案内等も職員に開示し、希望による研修参加も奨励している。新人職員へは基幹的職員による指導やユニットリーダーのサポート等の体制を整えている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	

【コメント】

実習生受け入れマニュアルを整備し担当職員を配置し、実習における留意事項を明示して守秘義務等は学校側の指導もあり守られている。子どもたちに受け入れ拒否はなく遊んで貰えると喜んでおり、元実習生が家庭教師のボランティアに来てくれた例もある。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

第三者
評価結果

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の有存在意義や役割を明確にするように努めている。	
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	

【コメント】

法人のホームページに学園の事業・財務状況を公表している。第三者評価については公表し、施設独自の評価・分析を行っている。地域に向けて広報紙やパンフレット等の配布はしていないが、地区長や民生委員の来訪時に配布している。地区の会合に出かけて施設説明を行った例もある。

② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。

a

	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	

【コメント】

月一回税理士による監査を実施し、年2回法人本部による内部監査を行い、透明性の高い適正な運営が行われている。寄付は適正に処理し透明性を図っている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。

第三者
評価結果

①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	
	(児童養護施設)	
	<input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	

【コメント】

コロナ禍により地域の行事が中止となっていたが、以前は流しそめんなどの地区行事に参加している。子どもたちが近隣の老人福祉施設にボランティアとして参加し、また学校主催の清掃活動等に出向いて交流を図っている。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	

【コメント】

ボランティア受け入れマニュアルを整備し、希望者には事前面接を実施し意向確認を行い開始している。元教師や大学生が来園し子どもたちに遊びや学習指導を行ってもらい、英検合格した例もあり学力の向上に繋がっている。今後も広くボランティアを受け入れ、子どもたちの社会性を育てていきたいとしている。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	

【コメント】

職員には必要な関係機関は事業計画書や施設内に掲示し、いつでも速やかに連絡が取れるようにしている。学校や幼稚園、関係医療機関、児童相談所等との連携を図り、年2回学校と連絡会議を開催し子どもたちの養育・支援に取り組んでいる。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	
	(社会的養護共通)	
	<input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	

	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	
【コメント】 地域全体としての状況は学校の運営協議会等で把握している。施設独自として地域のスポーツ少年団や幼稚園の運動会、近隣の福祉施設等に体育館を開放し地域貢献している。コロナ禍で途絶えていた「ふれあい祭り」の再開が待たれる。		
②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。 <input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。 <input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。 <input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。 <input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。 <input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	b
【コメント】 山形市の40数世帯の養育里親のサロン会を開き交流や情報交換を図っている。関係機関との連携を図り里親の支援強化に努めている。近年ひとり親家庭が増えており子育てに苦勞している親のため委託事業としてのショートステイ利用が毎年増加している。措置に至らないように施設の専門的な技術・援助を行っている。		

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。 <input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。 <input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	a
【コメント】 職員は年度始めに倫理綱領を読み合わせ、さらに「支援に関する対応マニュアル」に沿って子どもたちの養育・支援に取り組んでいる。こども家庭庁発足で掲げられたスローガン「子どもまんなか」を施設のキーワードとして常に子どもの意向・権利を尊重して寄り添っている。		
②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。 <input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。 <input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。 <input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。 <input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	a
【コメント】		

小規模ユニットで中・高生は個室で生活しており、プライバシーが守られている。職員は連携を図り見守っており、今のところ問題行動は見られず信頼関係ができています。職員研修で「被措置児童虐待防止マニュアル」を確認し意識向上を図っている。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特徴等を紹介した資料を準備している。	
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	

【コメント】

入所の際は事前に施設見学を行い、パンフレットや広報紙、ホームページ等でまた職員が直接丁寧な説明を行い、自己決定を大事にしている。転校して来る場合もあり学校間の連絡を密に行い、子どもと保護者の不安軽減に努めている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	

【コメント】

養育・支援の開始に当たっては施設側から子どもや保護者に対して援助方法等や決まり事の説明を丁寧に行っている。意思決定の困難な子どもや保護者に対して、口頭での説明では理解しにくいいため、パンフレット等を使って事業の説明も行っている。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	

【コメント】

措置変更や家庭復帰の場合は、学校や関係機関とケース検討会を開催して連携を図り、スムーズな移行に努めてその後も継続的な支援を行っている。身近な環境の変化として、ユニット替えでも大きく子どもたちが良い方向に向かう例もある。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	

<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	
<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	
<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	
<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	

【コメント】

子ども会等の組織はないが、ユニット毎に年長の子どもが自主的にみんなの希望を聞きお楽しみ会など実行している。また、些細なことでも話を聞く体制を取り、普段から子どもとの会話を大事にし意見や意向の把握に努めている。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者等の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	

【コメント】

苦情解決の仕組みは事業計画に明示されている。法人内に第三者委員会を設置し、その中の1名が担当者となっている。意見箱を設置しているが口頭で職員に要望してくることがほとんどである。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	

【コメント】

子どもたちの意見・要望はユニット担当職員に直接話すことが多く、普段(テレビを一緒に見る等)から話しやすい環境で一緒に取り組み実施している。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	

	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	
【コメント】		
さまざまな問題等を踏まえ対応マニュアルは毎年変更している。問題が起きた場合、その日の内に共有し問題が大きくなる前に対処している。子どもからの相談や意見等は全職員が共有し、その日のうちにケース記録に記載し速やかに対応している。		
(5)	安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。	第三者 評価結果
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。 <input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。 <input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。 <input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。 <input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。 <input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。 <input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	b
【コメント】		
リスクマネジメント独自の委員会は設置していないが、運営会議で対応している。安全管理マニュアルで、毎週、施設内外や居室の設備点検を行い、安全確保・事故防止に努めている。ヒヤリハット事例は冊子にまとめ職員同士引継ぎを行い、類似の事案が起こらないよう予防に取り組んでいる。		
②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。 <input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。 <input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。 <input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。 <input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	a
【コメント】		
感染予防マニュアルを整備している。新型コロナウイルスの流行により綿密なマニュアルを作成し追加している。その都度問題があれば修正をして作成している。今回コロナ感染があったが、職員も感染し、職員不足のなか子どもたちの協力があり軽症で終わることができている。		
③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。 <input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。 <input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。 <input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。 <input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	a
【コメント】		

重点目標を決めて、時間帯・出火場所・避難場所・地震等あらゆる災害を想定して子ども参加のもと毎月避難訓練を実施している。災害時の建物の耐震性や水害時のハザードマップは確認されており、避難場所としては1次～3次まで場所を決めている。安否確認についてはユニット毎に実施している。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	<p>40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/>標準的な実施方法が適切に文書化されている。</p> <p><input type="checkbox"/>標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。</p> <p><input type="checkbox"/>標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。</p> <p><input type="checkbox"/>標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。</p>	a
【コメント】		
標準的な実施方法を文書化し、子どものプライバシー保護や権利擁護にも配慮しながら支援マニュアルをもとに養育・支援を行っている。自己評価は「児童養護施設おける人権擁護のためのチェックリスト」により、子どもたちの触れ合いの中で不適切な関わりはなかったか確認している。		
②	<p>41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。</p> <p><input type="checkbox"/>養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。</p> <p><input type="checkbox"/>養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/>検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。</p>	a
【コメント】		
職員会議や処遇会議で定期的に養育・支援の実施方法の検証・見直しが行われ、新たに決定したことは会議録で職員全員が共有し速やかに実行している。行事等は子どもたちの意見や要望を聞き取り、買い物などの社会体験を実施している。学園のTシャツの柄をデザインしたりして子どもたちの満足と自信に繋げている。		
(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		
①	<p>42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。</p> <p><input type="checkbox"/>自立支援計画策定の責任者を設置している。</p> <p><input type="checkbox"/>アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/>部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。</p> <p><input type="checkbox"/>自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。</p>	a
【コメント】		
児童相談所からの情報を参考にして1ヵ月位の期間を経てからアセスメントシートをもとに処遇会議で合議し、副園長・ユニット担当職員が自立支援計画を作成している。子どもの努力目標は、生活に密着した身近な課題から始めて達成感を味わえるようにしている。問題行動のある子どもについては児童相談所と連携し施設長のアドバイス・担当外職員の意見なども参考にし、支援方法に活かしている。		

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	

【コメント】

処遇会議で自立支援計画を作成し評価を行い達成できないときは内容・方法を検討している。子どもの目標は小さな子どもほど頑張る様子が見られ、喜びや向上心を育てている。不登校になったり、心理的に不安定になるなど変化が出てきた場合には、緊急に基幹的職員が中心になって見直しを行っている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	

【コメント】

業務日誌、記録などはパソコンのソフトを利用して入力し、職員は出勤時に必ず目を通して情報を確認・共有している。個別のケース記録はプリントアウトしてファイルしており、担当職員の休職・退職があった場合でもスムーズな引継ぎが行われている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	

【コメント】

山形市の指定管理の規程及び、法人の規程に基づいて細心の注意を払い管理している。個人のケースファイルは施設長が管理責任者となって永年保管している。入所・退所時の保護者等から複数の書類への署名・捺印は児童相談所立ち合いのもと行われている子どもや保護者等から情報開示を求められた場合は児童相談所の判断を得ようとしている。

内容評価基準 (24項目)

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果
<p>① A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。</p>	<p>a</p>
<p>【コメント】 被措置児童虐待防止マニュアルの整備や、毎年度チェックリストを使用し職員が自己評価し施設長と共有している。現在は特別な信教を持つ子どもはいないが、以前信教のある子どもがいた際には、礼拝に行く為の送迎などの個別の対応を行っている。</p>	
(2) 権利について理解を促す取組	
<p>① A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/>職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。</p> <p><input type="checkbox"/>年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。</p>	<p>a</p>
<p>【コメント】 被措置児童虐待防止マニュアルを整備し、年に2回職員全員で読み合わせを行っている。CAPワークを通して、人権や虐待防止とはどういうことかを子ども・職員共にプログラムを基に毎年受講している。その成果として目に見える子どもたちの成長や自立性の発達につながっている。</p>	
(3) 生き立ちを振り返る取組	
<p>① A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/>伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。</p> <p><input type="checkbox"/>事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。</p>	<p>a</p>
<p>【コメント】 児童相談所と協力し、年に一度子どもと面談を行い、必要があれば月に一度実施するなど、個別の対応もしている。小さい頃の写真やアルバムを題材に振り返りを行ったり、年齢や進学などのタイミングに合わせて生き立ちの話をするなど、子どもの心の成長を促している。</p>	

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	<p>A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがつけられている。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。</p>	a
---	--	---

【コメント】

被措置児童虐待防止マニュアルを整備し、不適切な関わりがあった場合の対応も就業規則にて整備している。過去に不適切なかかわりが確認されたことはないが、どういった場合に指導なのか・暴言となってしまうのか、子どもの意見も聞いて職員間でも慎重に対応している。

(5) 支援の継続性とアフターケア

①	<p>A5 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。</p>	a
---	--	---

【コメント】

退所後の社会生活にスムーズに移行できるよう事前準備を行い、退所後も3年以上にわたりアフターケアを実施している。何かあれば施設のSNSや電話で相談を受け付けている。退所後も施設に気軽に訪問できるよう、企業からの経済援助を基に支援を行っている。

②	<p>A6 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。</p> <p><input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生時の連絡などにも対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。</p>	a
---	---	---

【コメント】

退園前からフレッシュマンスタート講座として、社会生活に必要な様々な知識や1人暮らしの練習を実施している。近年退園生向けに支援金を手渡す体制が整い、その受け渡しを通して退園生との交流も生まれている。また施設の夏祭りなどのボランティアを退園生にお願いしたり、子どもたちと交流できる体制を整えている。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	<p>A7 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかりと受け止めている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。</p>	a
【コメント】		
<p>ユニット毎に担当職員が子どもたちに寄り添い対応している。子どもが落ち着かない場合などは、自室で話をじっくり聞きクールダウンできるように時間をとる等の対応をとっている。</p>		
②	<p>A8 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。</p> <p><input type="checkbox"/>生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。</p> <p><input type="checkbox"/>基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。</p> <p><input type="checkbox"/>夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。</p>	a
【コメント】		
<p>子どもの生活時間帯は事業計画書に明示してある。就寝時幼児などは添い寝などの対応をし、夜間も安心して過ごせる配慮をしている。誕生日にはおもちゃやゲームなどをプレゼントし、定期的にユニット毎に担当職員と共に出かけるなど、家庭的な雰囲気を楽しんでいる。</p>		
③	<p>A9 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>つまづきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。</p>	a
【コメント】		

職員は子どもたちとの会話を大切に24時間寄り添っている。相性もあるのでユニットの職員だけでなく、子ども自身が話しやすい職員といつでも相談できる関係にある。職員は横の連携を図り、いつもそばにいて見守ることが子どもたちの心の安定に繋がっている。

④	A10 発達の状態に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状態、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	

【コメント】

入所している子どもの年齢層に合わせ、未就園児は地域の子育てサロンに参加、幼稚園に通園、学校は部活やアルバイト、ボランティアによる学習支援などそれぞれの年齢に合わせた学びや遊びを実践している。発達障害等のある子にはソーシャルスキルトレーニングの取り組みを継続して行っている。

⑤	A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	
	<input type="checkbox"/> 発達の状態に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 発達の状態に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	

【コメント】

援助マニュアルに沿って養育・支援が行われ、基本的な生活習慣(食事のマナー、衣類の洗濯やたたみ方など)が身に付くよう毎日トレーニングしている。「山形学園のきまり」を定め、互いが気持ちよく生活する上でのルールを学んでいる。高校生は退所後の自立に向けてアルバイトや、外部講師による「フレッシュマンスタート講座」等で社会人として必要な知識を学び、さらに一人暮らし体験も行い備えている。

(2) 食生活

①	A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気の中で食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	

【コメント】

毎月の給食指導目標を定め、年齢に応じた摂取カロリーを決めている。ユニット毎にご飯を炊いて配膳や片付けを協力して行い和やかな食事風景となっている。嗜好調査を実施し、誕生日には希望メニューに応え、行事食やバーベキュー・芋煮会、おやつ作りなど様々な献立で子どもたちの楽しみになっている。入所時に自分の居場所として感じてもらえるよう個別に箸と茶碗をプレゼントしている。

(3) 衣生活

①	A13 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	

【コメント】

被服費として一人ひとり予算があり、職員と一緒に買い物に行き個性に配慮したものを購入している。季節に合った衣服、洗濯や整理は一人ひとり行い、年少児もたたみ方を学んでいる。男女混合ユニットなので、小さい時から下着類は各自タオル等で囲み見えないように干すよう指導している。

(4) 住生活

①	A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	

【コメント】

共有スペースは皆で分担し気持ちよく過ごせるよう掃除をしている。居室はプライバシーに配慮しながら声がけし、職員と一緒に、寝具類等の清潔の維持と安心できる居場所づくりに努めている。日頃は草むしりなど協力して行い環境整備に努めている。

(5) 健康と安全

①	A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	

【コメント】

医療マニュアルを整備し、常勤の看護師を配置して日頃の健康管理に対応している。感染症予防マニュアルと新たにコロナ感染症対応マニュアルを整備し、対策を講じ感染防止に努めている。年2回、園内健診を実施し嘱託医との連携を図っている。

(6) 性に関する教育

①	A16 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心を持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	

【コメント】

男女混合で縦割りのユニット構成となっている。異性間・同性間においても不適切な関わりがないように職員は常に注意を払い見守っている。幼児期から着替えはカーテンを引いて行いプライベートゾーンを確保している。他者を尊重すること、自らを守るため、外部講師による「命の学習」を実施し、生と性について職員も一緒に学ぶ機会を設けている。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A17 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	

【コメント】

虐待などの成育歴により、子ども自身のストレスや心身の不調を抱えていることから人間関係において問題行動をとる時があり、職員は学校や児童相談所・警察と常に連携を図り、物事が小さいうちに適切に対応し、落ち着いた生活ができるよう支援にしている。

②	A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになってきている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合については、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	
	<input type="checkbox"/> 子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	

【コメント】

施設内での人間関係や相性をみてユニット構成には最大の配慮を行っている。職員は「お父さん、お母さん」として子どもたちに寄り添い、子ども同士も小さい子どもの面倒を見たり、職員の代わりに手伝いをしたりと助け合う姿が見られる。ソーシャルスキルトレーニングのセカンドステップ・サードステップで人との関わり方を学び、継続してきた効果が表れている。

(8) 心理的ケア

①	A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	

【コメント】

2名の臨床心理士を委嘱し、子どもは定期的にプレイセラピーやカウンセリングを受けている。職員の気づかない深層の心理的な面を表面に出すことができ、話をすることで安心して生活できるようになり効果が出ている。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	
<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。		

【コメント】

入所前の養育環境により基礎学力の低い子には、大学生の学習ボランティアに学習支援を依頼している。中学生は高校受験を見据えて家庭教師による学習指導を受けている。当施設は山側にあり、交通の便が悪く個別に送迎ができないため学習以外のスポーツ少年団等の参加が難しい環境にある。英語検定を受験し合格したことで本人の自信に繋がった子どももいる。

②	A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	
<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。		

【コメント】

将来の進路については大学進学を希望している子もおり、それぞれの進路に向かっていくことが出来るよう、奨学金の確保や生活のアドバイスをするなど細やかに支援している。進路について保護者に常に情報を提供するようにしている。子どものやりたいこと、夢を叶える方法を全職員で考え子どもの意思を尊重している。退所後は、各人の電話やメールで連絡し合い生活状況を把握している。

③	A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	

【コメント】

高校の許可を得て休日にアルバイトをしており、スーパーマーケットや飲食店が多いが、見つからない場合、近くの飲食店で受け入れの協力をしてもらっている。高校卒業後の自立を見据え、仕事の厳しさ、人間関係の難しさを乗り越え達成感を感じ成長している。またお金のありがたさや怖さ、楽しさを体験できている。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	

【コメント】

家庭支援専門相談員を配置して家族等との信頼関係の構築に取り組む、児童相談所の許可を得て面会・外出・一時帰宅などを通して子どもとの関係調整を図っている。ふれあい祭りなどに、保護者に案内しているが参加者は少なく、以前に比べて家庭復帰は減少している。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	

【コメント】

家庭支援専門相談員を設置し親子交流や宿泊施設を準備し子どもと保護者等の信頼関係や親子関係の構築できるよう取り組んでいる。